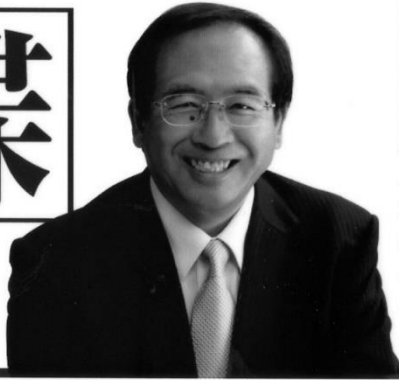


雑木蝶



三宮ゆきお後援会

北本市西高尾 1-259 TEL.FAX.048-592-1376
E-mail:sangu@salsa.ocn.ne.jp

さん ぐう 三宮ゆきお

新潟県柏崎市西山町生 (故 田中角栄氏同郷)
法政大学大学院 社会科学部政治学修了
北本市立北小・南小助教諭・教諭
北本市教育委員会市史編さん室長
平成27~29年度 北本市議会議員

討議資料

南部基金 ソフト面への活用も!

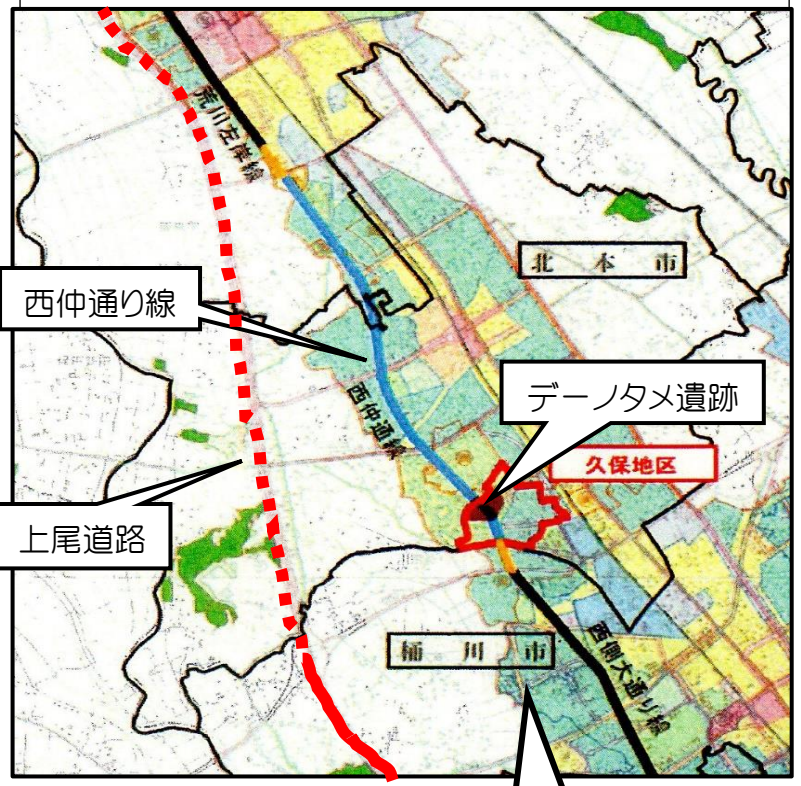
歴代市長(加藤元市長から)の積み立てた南部地域整備基金約8億円は、そのまま凍結された状態で5年が過ぎています。このまま、何の策もないまま、座して待つ状態で良いのでしょうか。

活気のあるまちづくりを進めるために、基金条例を見直し、南部地域のまちづくりのソフト面にも使えるようにすべきです。

新駅予定地周辺の開発の可能性や圏央道沿線の開発の可能性、デーノタメ遺跡の観光資源としての可能性、久保区画整理事業の発展的見直し費用等、この調査活動の一部にこの基金を充当し、新たなまちづくりを早急にスタートさせるべきです。

★勿論、基金を取り崩さなくとも、現王園市長が予算化すれば済むことです。いつまでも白紙凍結を唱えるのではなく、住民投票後のまちづくりに着手すべきです。かたくなな行政運営はノー!

久保区画整理事業と西仲通り線



久保特定土地区画整理事業!

平成8年に始まった、市施行の「久保特定土地区画整理事業」は、地価の最も高かった、平成4年の1㎡整理前単価14.1万で積算し、整理後1㎡単価を20万としたもので、坪単価66万円を想定しスタートしたものです。

バブルがはじけ、地価上昇による開発利益が期待できない今、時代条件にそぐっていません。

今年、区画整理事務所で開かれた説明会に出席させていただきました。地権者の皆さまの悲鳴にも近い声に、議員の一人として深く考えさせられました。この事業を進めた北本市には、行政処分をした説明責任があります。

① 事業費ベースでみた事業

	H9~22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38~52年	計
計画事業費	26.8億	3.2	3.7	3.8	7.1	8.8	8.6	7.1	7.4	7.3	6.4	5.7	5.4	3.1	2.9	2.9		約110億円
実績事業費	21.3億	3.9	3.5	3.0	3.0	2.6	2.9	3.4	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	43.0億	約110億円

② 資金計画図 工藤議員一般質問参考資料より引用作成

指摘 ①より (事業費ベースでは、平成52年の完成)

平成9年にスタートしたこの事業は、今年で20年を超えました。平成29年度、行政報告書による総事業費進捗率は39.5%であり、残りの事業費67億円を実績事業費3億円(27・28・29年の平均)で割り込むと、完成は約22年後の予定となります。

指摘 ①より (事業費の大幅増)

当初の総事業費110億円には、平成37年以降15年間の事業の長期化に伴うランニングコストは含まれていません。5人の職員の現体制を維持したとすると、事務所建物のリース代を含め年間約5千万円ですから、15年間の延長で7.5億円程の事業費がプラスされます。

		項目	金額 (千)	進捗率 (%)
国 費	計画事業費	2,720,000		
	実績事業費	775,752		28.5
市 費	計画事業費	2,023,000		
	実績事業費	635,688		31.4
歳 入	保留地処分金	2,172,000		
	実績事業費	82,420		3.8
市単独費	計画事業費	2,745,800		
	実績事業費	1,858,833		67.7
地方特定道路 A (都市計画道路)	計画事業費	1,021,200		
	実績事業費	1,021,200		100
歳入計	計画事業費	11,028,000		
	実績事業費	4,353,893		39.5

指摘 ①②より (国費の大幅減少)

東日本大震災以降、国費が大幅に減少しています。金額で、約 9 千万円です。その後も続く、全国各地の災害により、この状況は現在も続いています。このことは、国費の進捗率 28.5%からも読み取れます。

指摘 ②より (保留地処分金20年で1億円)

新駅の後背地としての性格もあった本事業、保留地処分金を 21.7 億円と見込んでいますが、20 年たった今、全体の進捗率は 4.7%、金額にして約 1 億円です。今後、一般財源からの繰入金は避けられそうにありません。

指摘 ②より (市費・市単独費の大幅増)

国費や保留地処分金の大幅減少は、同時に一般財源からの繰入金及び市債の大幅増と連動します。

数値でみると、市費・市単独費を合わせると約 25 億円です。それに比べ、国費は約 8 億円ですから、3 倍強の市費ということになります。本事業のこれまでの市債発行額は、約 17 億円です。

指摘 ②より (地方特定道路 A 事業費の使われ方)

この事業費は、都市計画道路建設に絡む国の交付金です。既に、約 10 億円全額使いきっています。しかし、事業費の進捗と事業の進捗は違います。市はこれまで、都市計画道路には手を付けていません。工事費の物件補償費や事務費等に使われています。

区画整理法的には問題ないようですが、本事業が自転車操業状態であることがわかります。

西仲通り線とは 50 年前人口 12 万人を想定! テー/タメ遺跡と区画整理事業は共存、事業地から除外も!

進捗率 0% 昭和 44 年に、「西の中仙道」として都市計画決定された市の道路です。50 年を経た現在も進捗率は 0% です。この道路予定直下(久保区画整理地内)に発見されたのが、関東の三内丸山遺跡と称される「テー/タメ遺跡」です。

市長は、上尾から鴻巣間を結ぶ幹線道路(幅員 18m)であり「廃止は困難」として、遺跡の記録保存という考えを示してきました。しかし、今年、国が全額負担する、17 号バイパスの代替機能のある上尾道路(国道)、幅員 57m の測量を始めたのです。おそらく、西仲通り線より速く開通することでしょう。

国や県は、これまで、時代にそぐわないこのような道路の見直しを市町村に強く求めています。

市の全額負担 補助金を除き、市が全額負担するこの道路、本町・西高尾地区では、100 戸ほどの家が貼りついています。また、幼稚園や病院等の準公共施設もみられます。一度工事を進めたら止めることはほぼ不可能です。

為政者としての極めて慎重な判断が求められます。

文化庁は、史跡の中に計画道路があってもかまわないという見解です。予定道路はそのままにして、遺跡をまちづくりに活用する方が得策と思えます。失った遺跡は二度と戻りません。

(概算事業費)

- ・道路整備費 7 億
- ・用地補償費 56 億
- ・雨水函渠費 2 億

事業費計 **65 億円**

飯能市見直し事例 1 つの区画整理継続地区と 4 つの除外地区! 4 か所の事務所も 1 か所に!

飯能市は、現在 4 か所の区画整理事業(飯能市施行)を抱えています。このうち、H20 年に、2 か所見直しをかけました。さらに H29 年から双柳南部の事業(総事業費進捗率 37.2%)も見直しに着手し、H31 年を目途に、その準備を進めています。

本事例は、「岩沢北部」地区の事例です。見直しにより、事業費の総額は、約 108 億円の縮小となっています。同様に、移転戸数も大幅に縮小しています。地区住民(全体で 1,169 世帯)の合意形成状況は、反対意見は 14 世帯(1%)だったという事です。

見直し前の進捗率は 6.2%、見直し後は、施工面積の減少もあり、この 10 年で 53.8%と順調に伸びているそうです。

なお、除外地区(4 つの地区)は「地区計画」に則り進められています。(主幹説明 30.10 一所长は 10 年、主幹は 8 年目一)

見直しの経緯と整備の方向

当初の目標

- 公共施設の整備・改善 (幅員 6m を基本)
- 宅地利用の促進

望まれる方向

- 下水道の整備
- 自由な土地活用
- 防災性の確保

原因

- 市の厳しい財政状況
- 地価の変動と景気の低迷

長期化

問題点

- 完成まで 100 年以上
- 建築制限の長期化
- 下水道整備の遅れ等

見直し前後の比較(岩沢北部)

元の計画

- 施工面積: 44.2ha
- 施工期間: H6~H21
- 事業費: 237.7 億円
- 減歩率: 24.71%
- 進捗率: 6.2%
- 移転戸数: 889 戸

(見直し期間 H15~20 年)

1 つ 継続地区

- 施工面積: 17.8ha
- 施工期間: 約 20 年
- 事業費: 72.2 億円
- 減歩率: 20.29%
- 建物移転: 141 戸

4 つ 除外地区

- 施工面積: 26.4ha
- 施工期間: 約 20 年 (一部を除く)
- 事業費: 57.3 億円
- 建物移転: 134 戸